

## 津波対応

現在、臨海学園が位置する南伊豆町子浦は、平成24年8月29日に内閣府より発表された南海トラフによる予想津波高（第2次報告）は、第1波は7分32秒で到達、最大12.3mの津波高となっています。

平成24年3月31日に発表された内閣府の推計では、2分～3分で1メートルの高さ、10分以内で最大25・3mの高さと推計が発表され、伊豆半島の各地では、大きな反響をよびました。

各地区津波高・到達時間一覧表

南海トラフ平成24年度8月発表10mメッシュから抜粋

地区・場所	最大津波高(m)	第1波到達時間	右記m津波到達時間	備考
湊(河口)	13.0	11分50秒	14分59秒(10)	
小稲	10.7	11分12秒	12分58秒(5)	
下流(公民館付近)	15.0	7分8秒	12分33秒(10)	
下流(赤穂浦付近)	12.9	6分46秒	12分12秒(10)	
下流(広瀬付近)	10.8	6分21秒	11分37秒(5)	
大瀬(南崎保付近)	16.4	5分48秒	11分25秒(10)	
大瀬(集落付近)	11.6	6分7秒	11分34秒(10)	
大瀬(吉子の浜)	13.6	5分26秒	10分41秒(10)	
石廊崎(本瀬付近)	14.3	5分23秒	10分11秒(10)	
石廊崎(集落付近)	8.6	7分14秒	10分18秒(5)	
中木	17.6	4分54秒	8分14秒(10)	
入間	17.4	5分33秒	8分4秒(10)	
吉田	18.5	4分29秒	6分48秒(10)	
吉田(宮戸ノ浜付近)	23.3	4分15秒	7分4秒(20)	
妻良	11.7	7分54秒	9分8秒(10)	
東子浦	12.0	7分33秒	8分22秒(10)	
西子浦	12.3	7分32秒	8分38秒(10)	
落居	22.0	6分6秒	7分14秒(20)	
伊浜(奥の川)	21.8	6分35秒	7分18秒(20)	
伊浜(漁港)	21.7	6分15秒	7分2秒(20)	
伊浜(波崎崎)	17.6	4分52秒	5分23秒(10)	

これにより3月に発表されたものより8月に発表された第2次報告は10mメッシュで発表したことにより、より詳細なものとなり数値はさがりましたが、学園の津波対応としては、3月に発表された25・3mの高さを想定した対応をとります。

注目すべき点は、報道記者発表でも発表されたように、発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす事です。このことを踏まえ、日頃から地震の脅威を十分認識しておくことが重要と考え、そこの地形や海拔などをしっかりと理解し、その避難経路を利用者に伝え、確認させることで正しく恐れることができ安心・安全な体験ができると考えています。

今の日本は、いつ・どこで、自然災害に遭うかわかりません！

正しく伝え・認識することが、大切と考えます。

地震だ！・津波だ！・すぐ避難（より高く・より遠くへ）

### 避難の基本的な考え

全員の人命確保を第一に考え、7分32秒以内に12.3m以上の高台までの避難を1次避難とし、その後安全を確認し、2次避難として避難地である三浜小学校へ移動とします。

また、状況により、大人（団体指導者・親・学園職員）の指示に従って行動する場合だけでなく、自分の判断で避難場所へ避難する場合があります。

### 下見による確認と事前準備として

下見に来園した際には、団体引率者に対し、緊急避難時の上陸点と避難導線の説明を行います。

その後、団体引率者には学園より提供された資料（避難経路図）を基に必ず徒歩による確認をお願いいたします。

提供された資料は個人へ渡し、事前指導や説明会などで活用して下さい。

### 避難訓練の実施

学園到着後、最初の活動として、一旦海岸まで移動して、帰り道に避難場所の三浜小学校までの避難訓練を実施してください。

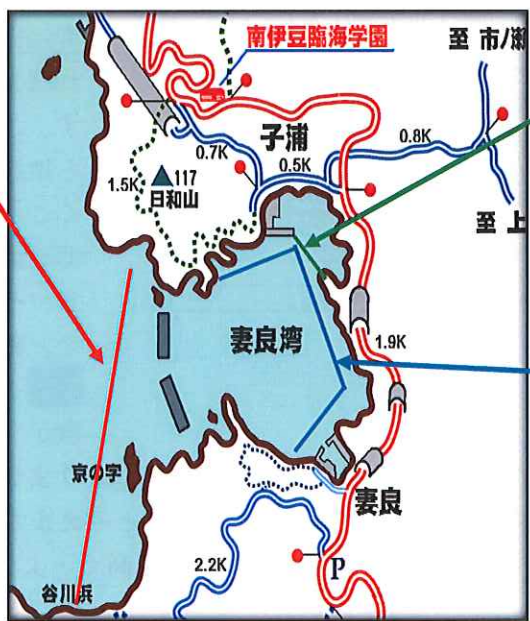
過去の実績として活動する海岸から、130名の児童が5分で避難完了することができました。

### 活動エリアの縮小

活動エリアを狭めることを利用団体（学校）の引率者と検討します。

活動前（入園時）に、利用団体（学校）の引率者と打ち合わせをして、活動エリアの確認をして7分32秒で到達する第1波に対応できるようにします。

3・11震災前の活動エリア  
赤い線より妻良湾内で活動  
していました。



H24年度以降は活動エリア  
を緑の線より湾内で活動する  
かを団体責任者と検討して  
います。

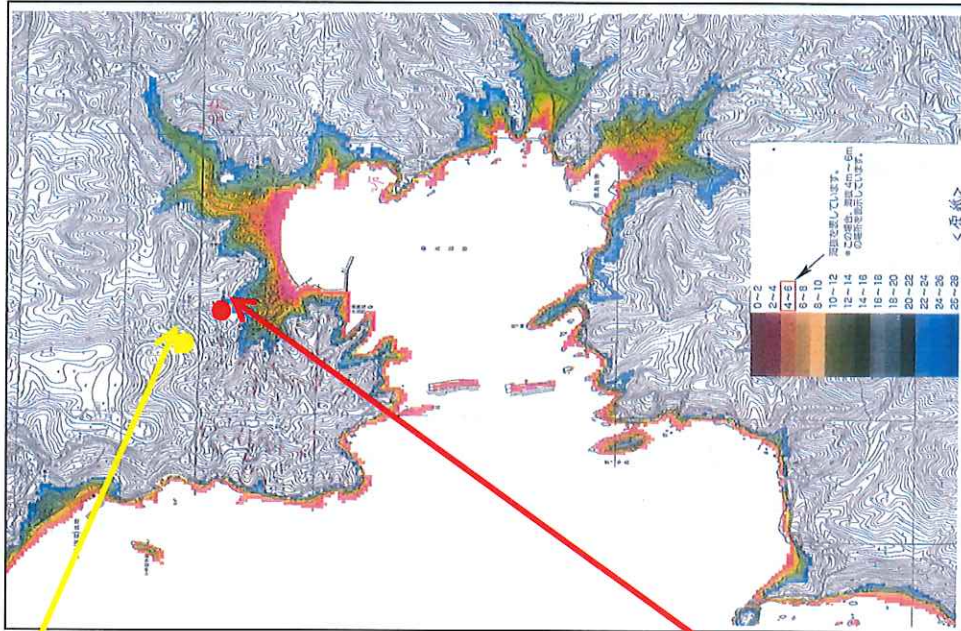
H26年度以降の活動エリア  
青い線より湾内で活動しま  
す。

※ 園内で活動中の場合

南伊豆臨海学園は海拔 94m に位置しています。

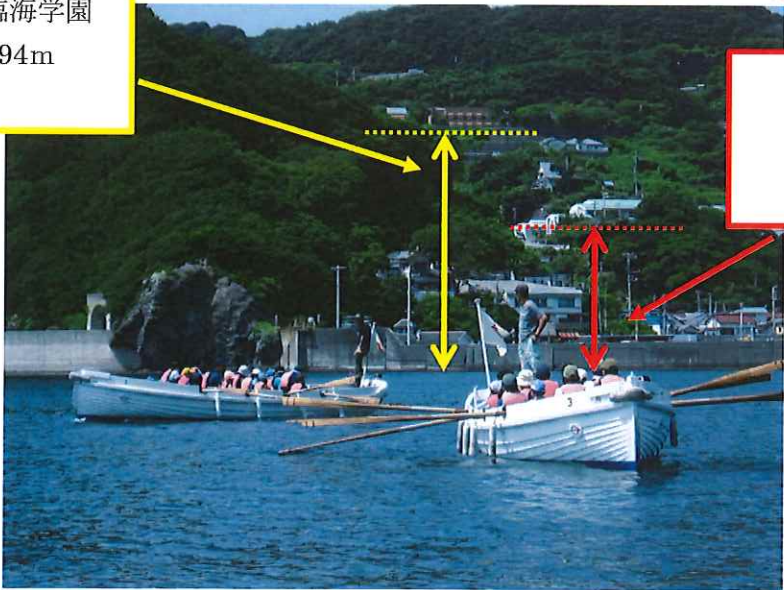
津波到達の可能性は低いと考えます。

地震発生時にはそのまま学園にとどまり、避難します。その後、情報を収集し状況を把握した後、横浜へ帰る方法を対処することになります。



南伊豆臨海学園  
海拔 94m

三浜小学校  
海拔 38m



## ※ 海で活動中の場合

### 学園指導員の配置

カッター指導には、各艇に1名、カヤックには全体に1名、指導員としての学園職員を配置し緊急時には団体指導者と共に避難誘導を行います。

### 活動前の再確認

乗船前に参加者に対し緊急時を想定して、避難地の三浜小学校（海拔 38m）への避難路の説明を行います。

緊急時に、大人（団体指導者・親・学園職員）の指示に従って行動する場合だけではなく、自分の判断で避難場所へ避難する場合がありますを伝えます。

### 地震発生時

学園の各職員は、携帯電話を持っています。緊急地震速報を受信することができ、それに加え南伊豆町の広報スピーカーよりサイレンとともに「**地震が発生しました海岸にいる方は、ただちに高台に避難してください**」と避難誘導放送が流れます。

これにより情報を得た職員は、団体指導者との連携により湾内にある**最寄りの上陸ポイントから、上陸させ防潮堤の内側へ誘導し、1次避難、高所（7分32秒の間に海拔12.3m以上の位置まで）へ避難誘導**させます。

### 子浦地区地域防災について

子浦地区には東海地震を想定して高さ7mの防潮堤が浜全体に設置されており、扉が数か所あります。扉は地震発生後、津波警報発令時には地域防災組織の係が扉を閉鎖します。

五十鈴川には水門が設置され警報発令時には下田土木事務所にて自動閉鎖されます。

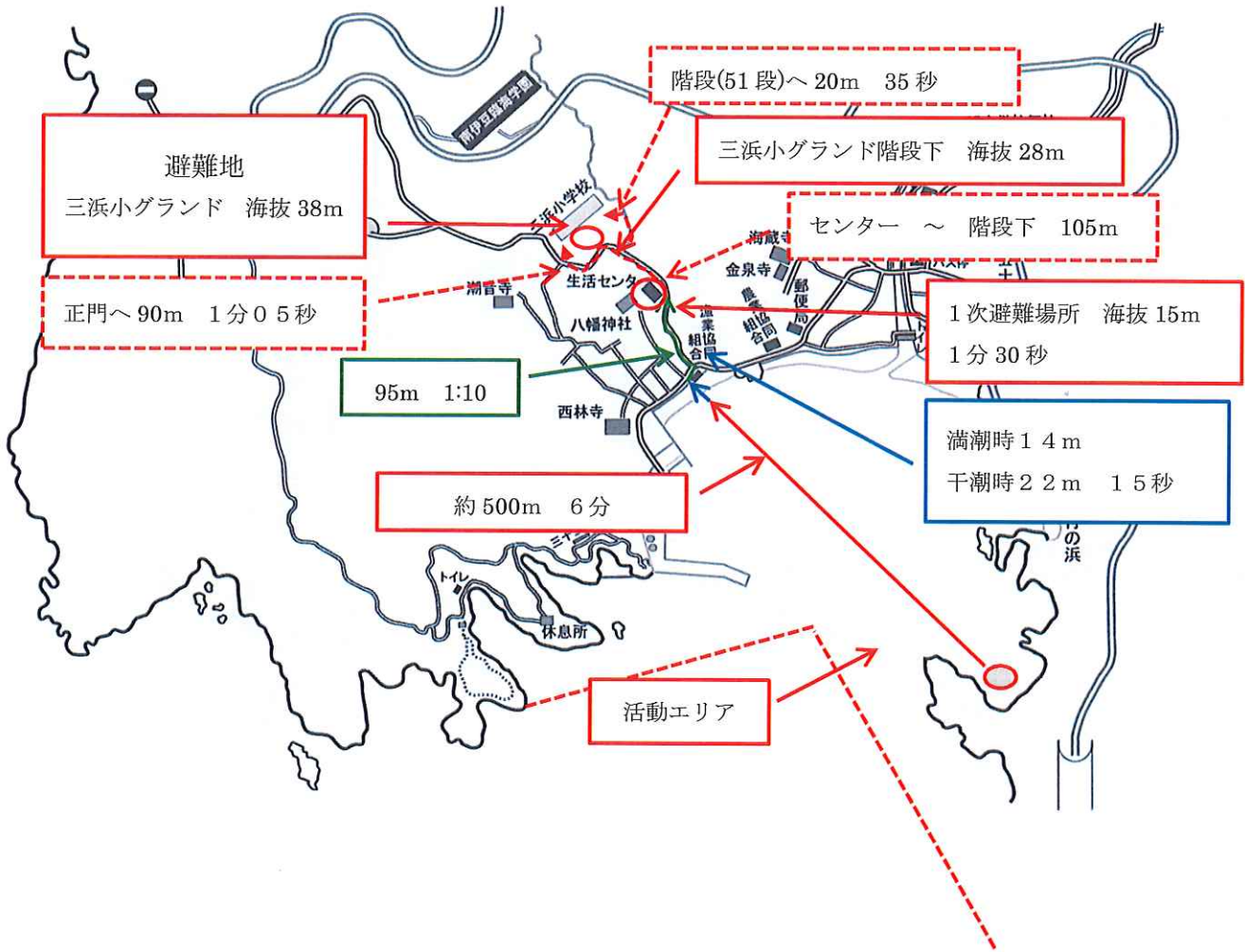
### 個別支援が必要な場合

車椅子や個別支援が必要な児童の避難誘導にも団体指導者との連携により対応します。なお、活動場所には学園車両が駐車してあり避難に車両を使用するか、団体指導者と打ち合わせします。

### 連絡手段として

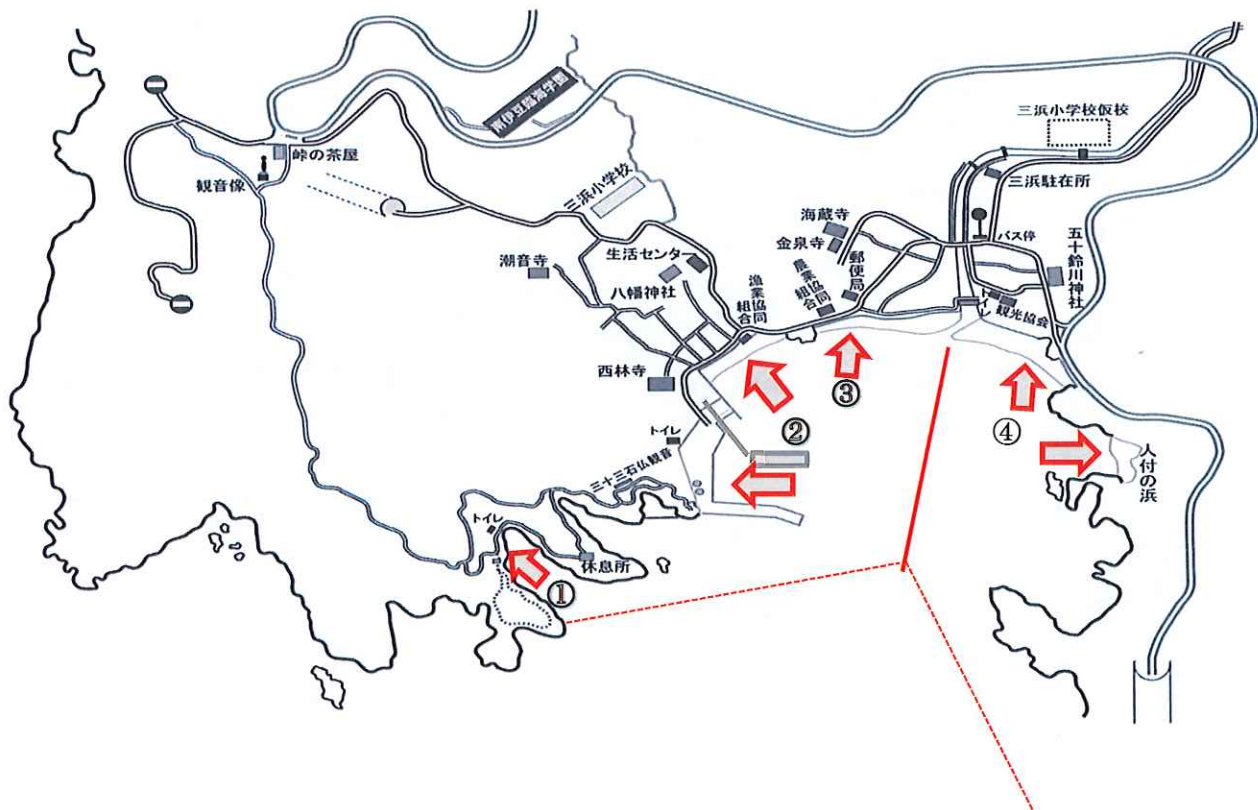
県道の高台に避難した場合、携帯電話が使用可能の場合には団体指導者と学園と連絡を取り学園へと帰園させる手段を考えますが、避難地から臨海学園との連絡方法として、携帯電話が使えない場合は、携帯電話や徒歩などにより連絡や情報収集を図ることとなりますが、携帯電話が使えない場合の連絡手段として、トランシーバーなどを団体指導者の持ち物に入れてください。

基準となる避難時間と距離（最も遠い場所から三浜小まで）

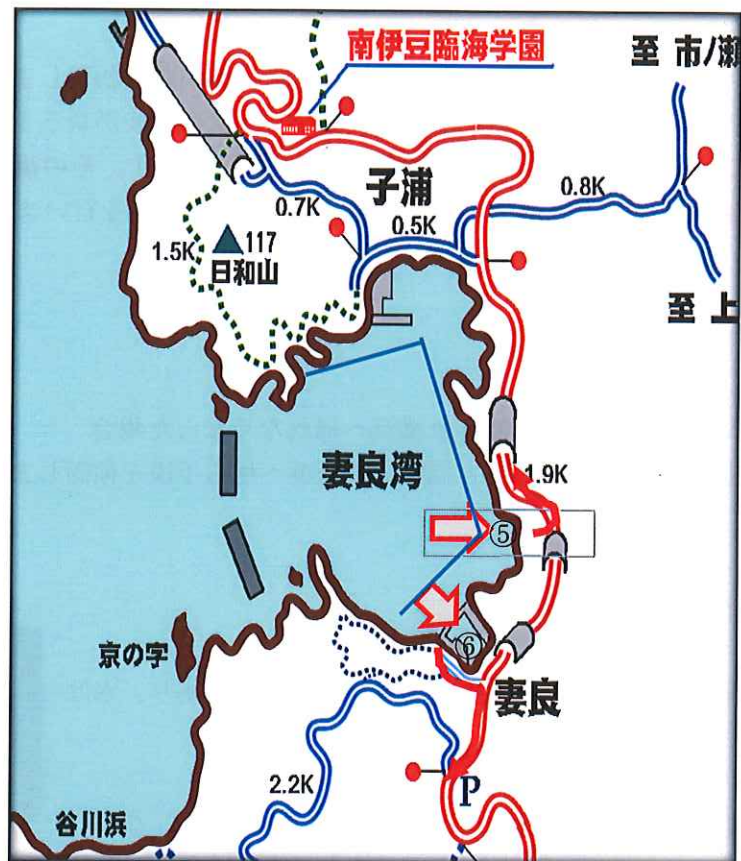


活動エリア内の最も遠い位置 ~ 1次避難場所 生活センター(海拔 15m)まで 7分 25秒  
1次避難場所 生活センター(海拔 15m) ~ 避難地 三浜小学校まで 1分 30秒  
合計 8分 55秒

## 上陸ポイント



- ① 日和山ハイキングコース  
スノーケリングで使用する場所 日和山へ避難する
- ② 漁協前海岸  
浜レクなど、海浜活動で使用する場所 三浜小へ避難
- ③ 農協前海岸  
カヤックの乗船・下船で使用する場所 三浜小へ避難
- ④ 東子浦海岸  
磯の生物観察などで使用する場所 県道へ避難



- ⑤ 田面海岸  
磯の生物観察などで使用する場所 県道へ避難
- ⑥ 妻良海岸  
海上アスレチックなどでの磯の生物観察などで使用する場所 県道へ避難

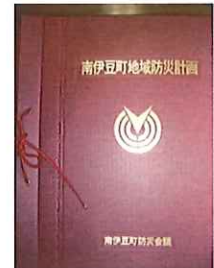
※ 海浜(浜レク・つり・磯遊び) で活動中の場合

学園の職員が指導に付かない海辺の活動中は、団体指導者が避難誘導します。  
地震発生を体感するか、避難誘導放送が流れた場合、「次は津波が来る！」と判断して、  
7分30秒以内に13m以上の高台までの避難を1次避難とします。その後、安全を確認し、  
2次避難として避難地である三浜小学校へ移動し全員の安否確認を行います。

災害対応

※ 道路や電車など交通機関が寸断され横浜へ帰れなくなった場合

南伊豆町地域防災計画に従って町と協議して横浜へ帰る手段を検討します。



※ 長期の避難生活になった場合

学園では、上水道の45,000ℓと15,000ℓのタンクが2か所あり、水は確保されています。



非常食は、600食分の乾パンが非常食として用意されています。なお、米は最低でも100kgは在庫があり、ガスが使用可能な場合は、おむすびとして提供できます。



ガスが使用できない場合でも、野外炊飯の飯合で炊くことができます。また、米以外の食材も、宿泊利用がある場合には、数食分の在庫があります。

